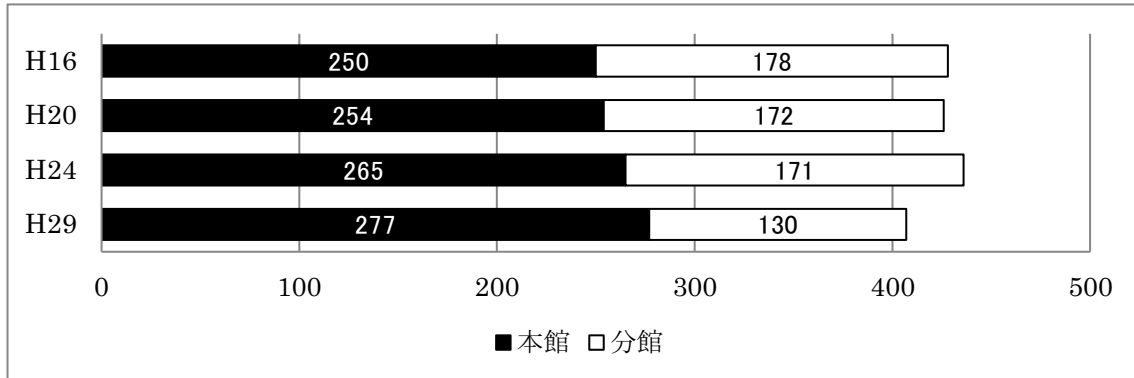


## II 公民館等の現状について

### 1 公民館の現状

県内の公民館数は、H24 と比べて減少しているが、本館数は増加している。

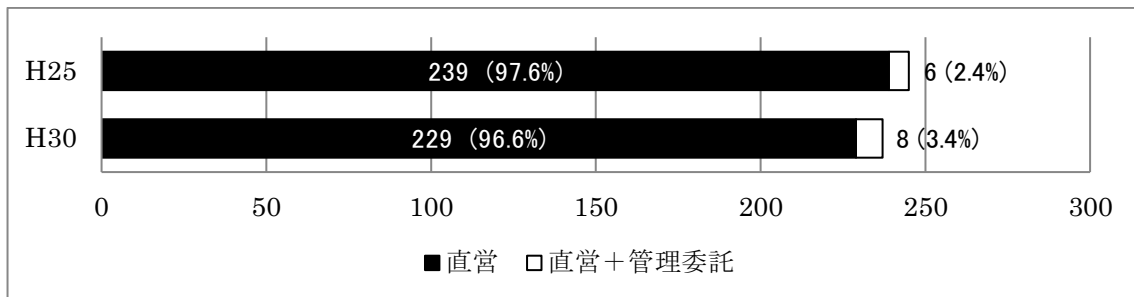
図1 公民館数の推移 (H16・n=428, H20・n=426, H24・n=436, H29・n=407)



◆岡山県教育庁生涯学習課「平成17・21・25・30年度生涯学習・社会教育行政便覧」のデータを元に作成（以下、「県教育庁生涯学習課資料」と表記する）

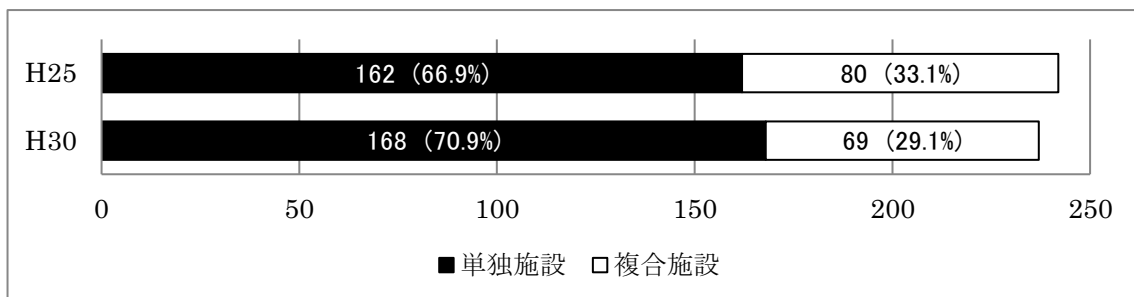
県内のほとんどの公民館は、直営で管理・運営を行っている。

図2 公民館の管理運営状況 (H25・n=245, H30・n=237)



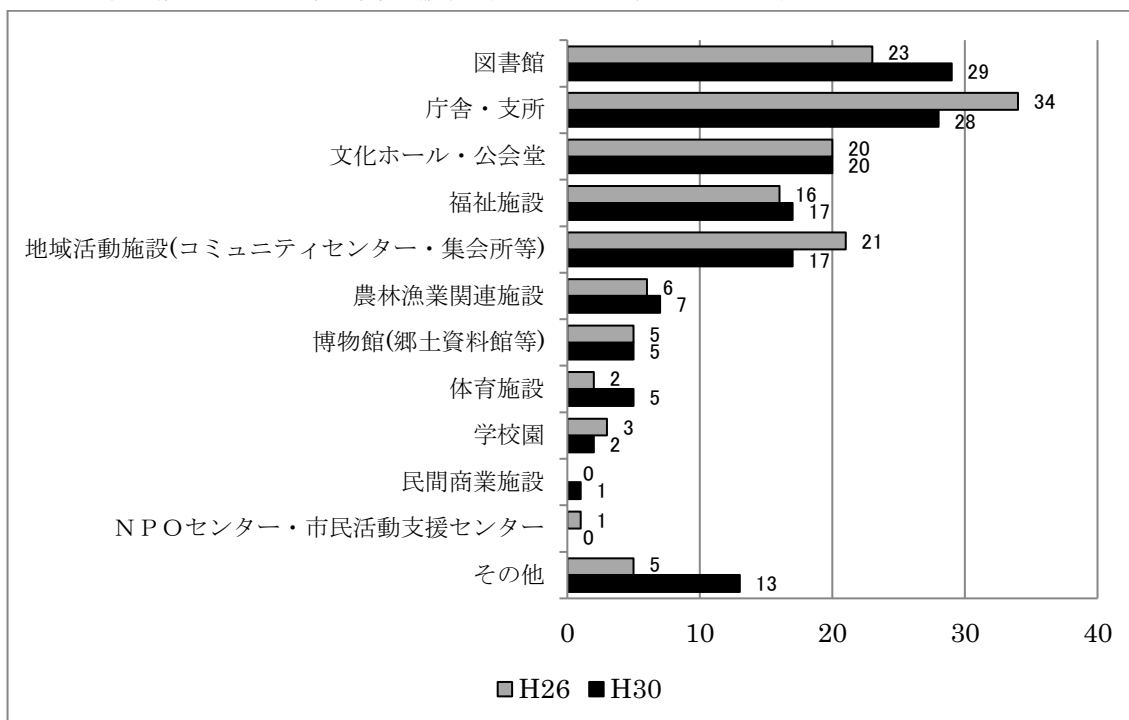
県内の公民館の約3割が複合施設である。

図3 公民館の施設概況 (H25・n=242, H30・n=237)



公民館に併設されている施設・機関として、「図書館」等が増加し、「庁舎・支所」「地域活動施設」等が減少している。

図4 公民館に併設されている施設・機関（複数回答 H26・n=80, H30・n=69）



その他…○市民サービスコーナー ○生涯学習施設 ○教育研究研修センター ○宿泊研修所 ○教育相談室・適応指導教室  
○スポーツジム・温泉・プール ○ミュージアム ○郵便局 ○診療所 ○介護支援事業所  
○幼稚園(保育園+幼稚園)・(現在閉園中) 等

※「H26」となっているのは、平成25年度「公民館実態調査」の追加調査をH26に実施したため

※「民間商業施設」の項目がH26で0となっているのは、選択肢がなかったため

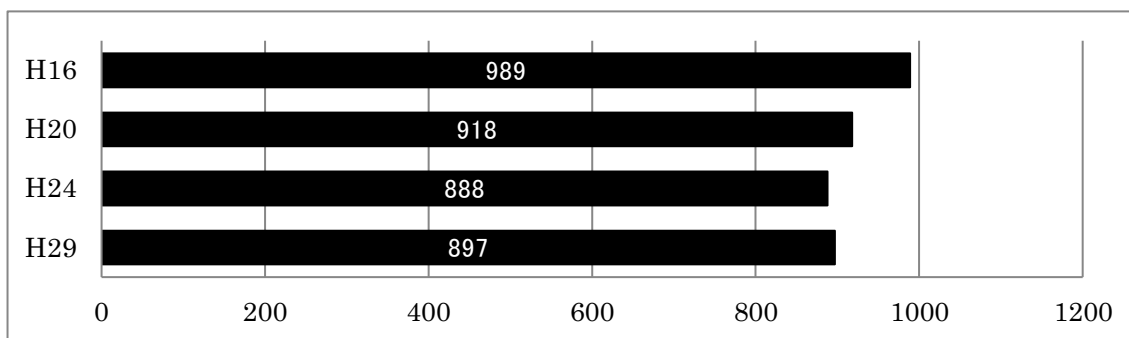
### 【1 公民館の現状についての自由記述】

- ・当館は後期高齢者の参加が多いが、施設がバリアフリーになっておらず、施設面の充実が必至である。また、高齢者がわかりやすく、安全に利用できる設備環境の改善が必要である。(他2件)
- ・施設の老朽化が進んでおり、施設管理が十分にできない現状がある。(他1件)
- ・多くの地域住民が参加できるように、駐車場等の公民館施設、設備の充実が必要である。(他1件)
- ・施設の老朽化に伴う修繕、更新にかかる経費負担抑制のための施設維持管理が必要である。(他1件)
- ・運営面については、施設の劣化や予算の削減等で年々厳しい状況である。

## 2 公民館職員の現状

H16～H24 で減少傾向にあった公民館職員数は、H24 と比べてほとんど変わらない。

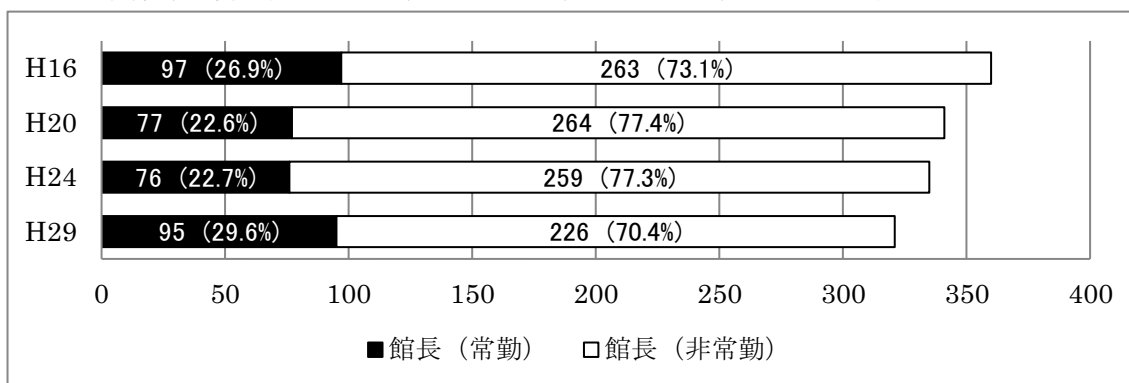
図5 公民館職員数の推移 (H16・n=428, H20・n=426, H24・n=436, H29・n=407)



◆「県教育庁生涯学習課資料」のデータを元に作成

館長数は減少傾向にあるが、常勤館長の割合はH24 と比べて増加している。

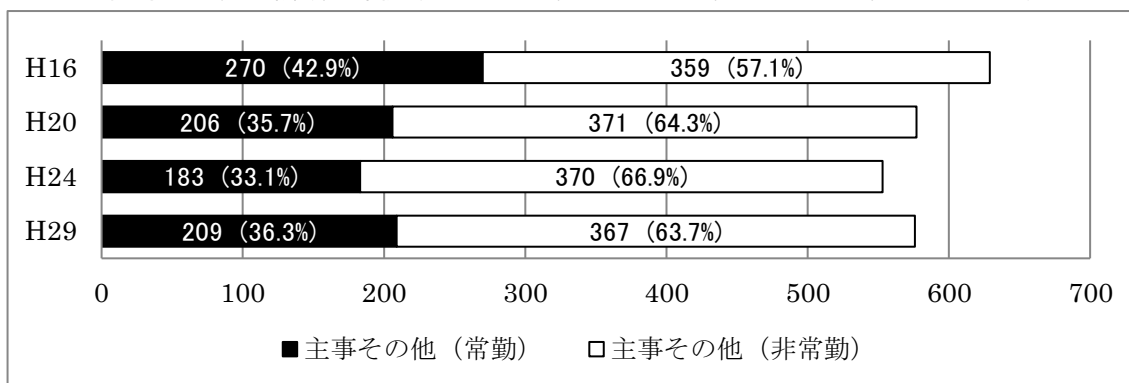
図6 公民館館長数の推移 (H16・n=428, H20・n=426, H24・n=436, H29・n=407)



◆「県教育庁生涯学習課資料」のデータを元に作成

H16～H24 で減少傾向にあった常勤の公民館主事及びその他職員数は、H29 で増加している。

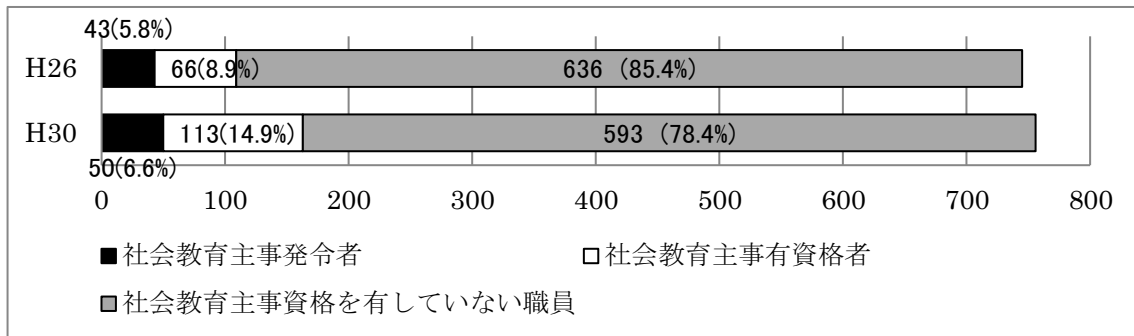
図7 公民館主事及びその他職員数の推移 (H16・n=428, H20・n=426, H24・n=436, H29・n=407)



◆「県教育庁生涯学習課資料」のデータを元に作成

公民館職員における「社会教育主事発令者」「社会教育主事有資格者」の数は、H26 と比べて増加している。

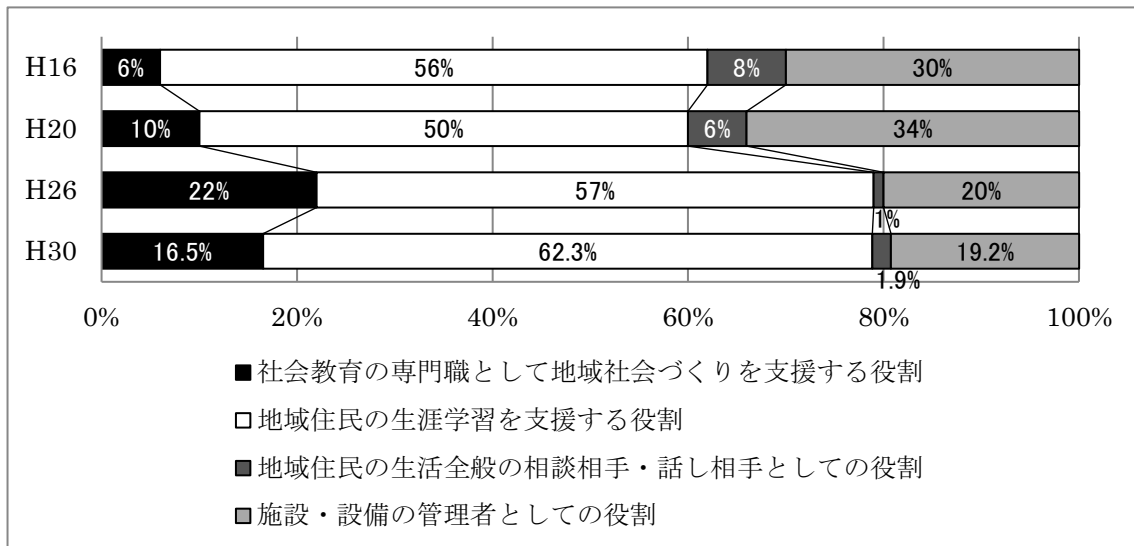
図8 公民館職員における社会教育主事資格の有無 (H26・n=242, H30・n=260)



※「H26」となっているのは、平成25年度「公民館実態調査」の追加調査をH26に実施したため

職員の意識として、「社会教育の専門職として地域社会づくりを支援する役割」の割合がH26 と比べて減少し、「地域住民の生涯学習を支援する役割」の割合が増加している。

図9 公民館職員の役割 (過去調査との比較 H26・n=242, H30・n=260)



※「H26」となっているのは、平成25年度「公民館実態調査」の追加調査をH26に実施したため

## 【2 公民館職員の現状についての自由記述】

### 職員の業務

- ・利用者が高齢化してきているため、様々な年齢層の利用を増やすべく、時代のニーズに合わせた講座の企画や地域課題を意識した事業の展開等、多様な役割を担うことが課題と思われる。
- ・長年実施されてきた納涼祭、体育祭、文化芸能祭他、各種スポーツ行事、行政等の行事への貸館など様々な事項が委ねられている。
- ・公民館の目的と目標の明確化と、業務内容の整理が必要である。
- ・公民館の位置付けが、地域課題の改善場所として地域住民から求められている中で、公民館長としての立ち位置が難しくなっている。
- ・倉敷市の公民館は人権学習を推進している。県内でもこれだけ公民館で人権に取り組んでいるところはない。このことは倉敷市公民館の特徴といえる。社会教育法にいう公民館職員の仕事を再確認し、業務を遂行することが大切である。

## 職員の充実

- ・どの公民館にも、社会教育主事（資格者）を配置することが望ましい。（他2件）
- ・いろいろな課題に向き合える公民館であるためには、さらなる職員の充実が必要である。（他2件）
- ・スキル、経験を持った活動支援員の配置が必要である。
- ・公民館職員の専門性を高めることと、人数増員及び処遇の改善をすすめる。
- ・事務が煩雑な公民館では、主事補的なアルバイトでも雇用できればよい。各種団体がらみで、公民館業務以外の仕事が結構多い。
- ・地域における公民館の重要性、果たす役割、公民館への人的配置の充実等を首長部局にしっかり考えてほしい。少子高齢化の中で「公民館」の存在意義は、今後とても重要になると思われる。
- ・老人会の支援、小学校や幼稚園等の交流会、それらの活動の場所も提供しており、地区公民館は1人体制なので活動できることが少ない。地域の方の利用が増えるよう、ニーズに合った事業を一つでも多く実施できたらと思っている。
- ・公民館に非常勤嘱託職員が1名という状況の中では、公民館の維持管理だけで手一杯という状況である。そのような状況の中でも現代的な課題や地域の課題に対応していこうとしてはいるが、非常勤1名では限度がある。
- ・地域間格差があると思うので一概には言えないが、日常業務が煩雑すぎる。全ての事務処理を主事1人で行うのは時間的に無理である。既定の週32時間では絶対に処理不可能である。
- ・専任の公民館長、公民館主事がいて運営できれば、もっと活発に活動ができると思われる。
- ・主事1人、勤務時間のない館長身分等、職員の勤務条件の確立が必要である。
- ・業務内容による職員数の見直しが必要である。
- ・担当職員の減少で、講座開催が難しくなっている。
- ・公民館の運営に対して、施設管理、活動等の職員スタッフの増員が最重要と考える。
- ・公民館設立当時と現在の社会的背景の変化、生活様式の変化により住民ニーズも変わっているのではないかと。それらを敏感に感じ取り、公民館運営、講座開催を行う必要があると考えるが、職員数の削減による個々の負担増、予算の削減等々、厳しい運営を強いられているのが現状である。
- ・地域活性があちこちでいわれるが、圧倒的に人材不足である。取り組みたいことがあってもできることが限られている。
- ・当館の地区では、以前からスポーツ振興、文化振興に対する事業が多々あり、事務局として公民館が運営に携わっており、企画、立案、実施と事前準備を含めると、とても2人の職員では対応できない。幸いにも地区での協力体制があり、いろいろな事業に多くのボランティアの方が参加し、公民館独自の事業にも知人、友人の協力があるのでがんばれている。これで十分とは決して思っていないが、ボランティアの人たちにこれ以上、多く頼っていくことは私にはできかねる。
- ・倉敷市の公民館は、人権教育、人権学習の事務局を担っていたり、図書館業務等の下請け的な仕事が多かったりし、3人という少ない職員数でたくさんの仕事をこなしている。正規職員や社会教育主事もいない現状である。公民館業務の見直しと職員の充実を図り、公民館本来の姿である地域住民の生涯学習を支援する体制づくりが喫緊の課題である。

## 職員のスキルアップ

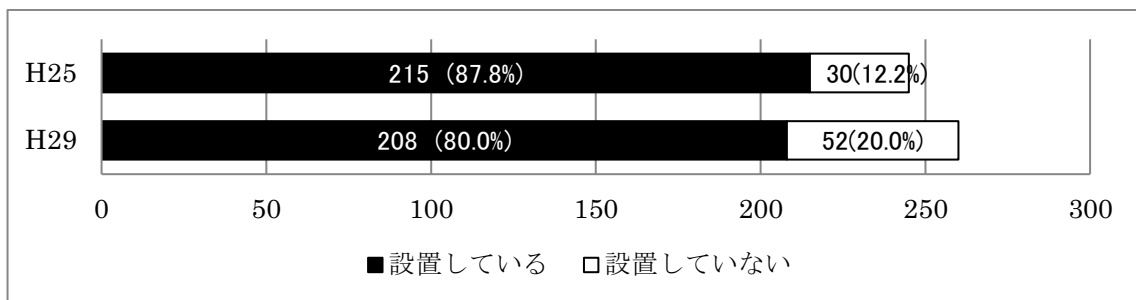
- ・限られた職員数の中で、スキルの向上等が一層求められている。（他2件）
- ・地域の生涯学習の拠点としてどんな学びを提供できるか。職員のスキルが不足している。
- ・公民館でしかできないことへチャレンジする姿勢が大いに求められていると考える。それゆえ、公民館職員としてのスキルアップを常に心がけていく必要がある。
- ・住民が主人公となり地域のこれからのを拓いていくためには、住民の意識改革も必要だが、それをサポートしていく職員のスキルアップも必要である。
- ・職員の資質の向上と地域や住民との関係づくりの強化を図るためには、職員の研修の機会を充実しなければならぬ。

- ・高齢化社会が進む中で、社会教育を推進していく公民館の役割はますます重要なものとなる。そのための首長部局及びその出先機関による職員研修の実施が特に大切である。
- ・行政の縦組織から降りてくる取組を、公民館が集約して地域住民に情報伝達し、取組案を企画して実践していくことが求められてくるので、さらなる自己啓発の重要性を痛感している。
- ・活動や講座がマンネリ化している。新しい目線や興味を沸かせられるような取組、PR をしていかななくてはならない。公民館職員の発信力、企画力が必要である。
- ・社会教育施設や団体との連携事業の視察研修が必要である。

### 3 地域住民の参加・参画状況

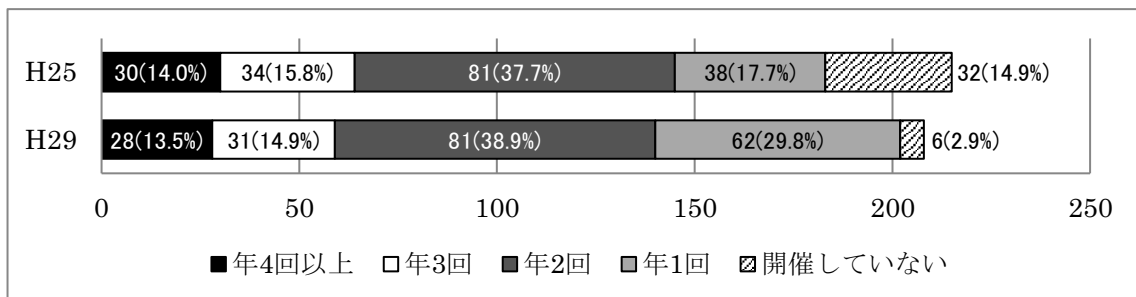
公民館運営審議会またはその代替機関を設置している公民館の割合は、H25 と比べて減少している。

図10 公民館運営審議会または代替機関の設置状況 (H25・n=245, H29・n=260)



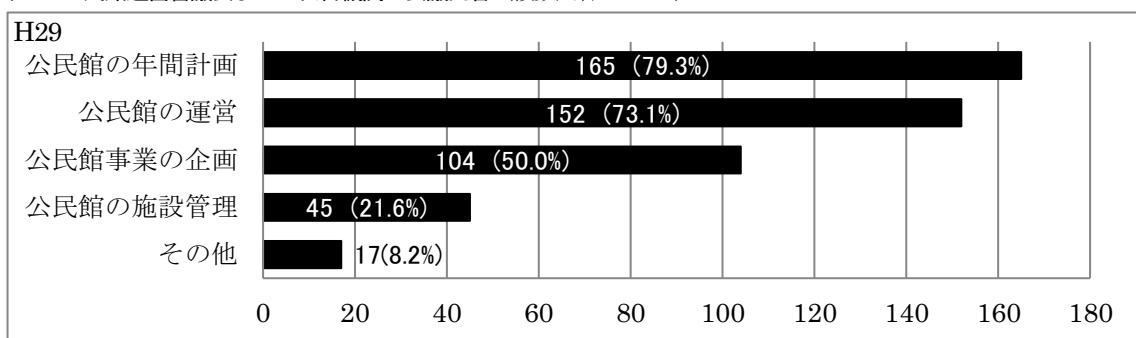
会議を年1回以上行った公民館数は、H25 と比べて増加している。

図11 公民館運営審議会または代替機関の会議開催回数 (H25・n=215, H29・n=208)



会議の内容は、「公民館の年間計画」が最も多い。

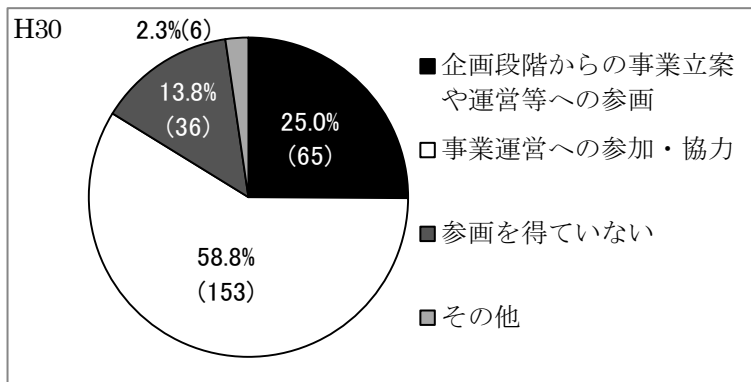
図12 公民館運営審議会または代替機関の会議内容 (複数回答 n=208)



その他…○今後の公民館の施設等のあり方 (他 2件) ○公民館の予算 (他 2件) ○公民館事業の報告  
 ○公民館の主催事業の評価 (他 1件) ○利用者アンケートの結果共有 ○地域の状況についての情報交換  
 ○視察研修 ○文化祭の実行 等

地域住民から、「企画段階からの事業立案や運営等への参画」「事業運営への参加・協力」を得ているという回答を合わせた割合は、8割を超えている。

図13 事業運営における地域住民の参加・参画状況 (n=260)



その他…○日常はないが、公民館まつりの準備・片付けで地域住民の協力を得ている。

○参加協力の段階か、事業立案や運営等への参画の段階かは事業内容による。

○中央公民館で学ぶ講座生から協力を得ている。 等

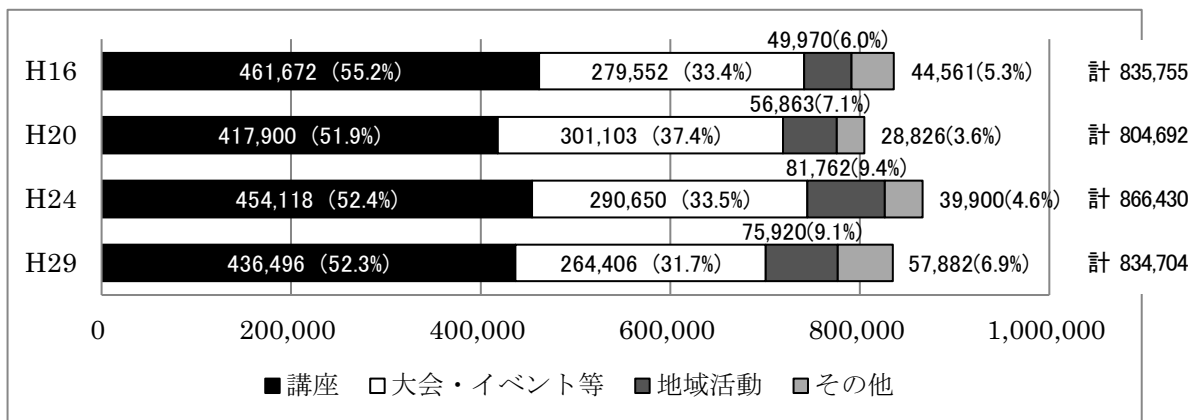
### 【3 地域住民の参加・参画状況についての自由記述】

- ・住民の公民館への関心が低く、地域住民の積極参加が求められている。
- ・公民館は生涯学習をする場という意識が住民に定着している。地域づくりの一環のための生涯学習であるということを理解してもらいたい。公民館を利用している趣味のグループが、どのような形で地区づくりに携われるかを意識付けしたい。
- ・住民が主体となって地域の未来像を描き、その実現に向けたサポートを行う。そのために、地域ワークショップを開催するなど地域の魅力を発見し、活用したり住民主体の地域活動をサポートしたりして、地域の持続可能性を目指した取組を進める。
- ・公民館が決めた行事を、公民館役員だから手伝うというのではなく、やりたいことを地域から積極的に提案してもらい、それを実現するために公民館がサポートする。そのような形を当たり前にし、住民主体で元気な地域へと盛り上げていきたい。
- ・地域の方が、いろいろな行事をするのに、公民館に頼りすぎず、公民館も地域に役立つおとしどころを考えて行事等に関わっていくことが大事である。
- ・住民相互の知恵を出し合う機会を努めて設け、皆でつくる豊かな地域づくりを進めていく。
- ・人と人との関係が希薄になりつつある今の世の中で、何か一つでも地域住民がつながる事業があればいいと思う。そういう意味で、小学生を中心に三世代が集える交流会事業は続けていかなければならないと考える。型はいろいろと変化するが、多くの方が目的を持って集まる企画が大切である。公民館は先頭に立つのではなく、皆さんの活動を陰で支える役割となって、お手伝いをしたいと思う。
- ・地域に根ざした公民館活動であることはもちろんだが、地域の御用聞きになってはいけないと感じている。
- ・事業参加者の、参加から参画への意識改革が求められている。
- ・住民が事業へ企画段階から参画し、運営をとともにすすめていくことをより推進する。

#### 4 公民館利用者・利用団体の現状

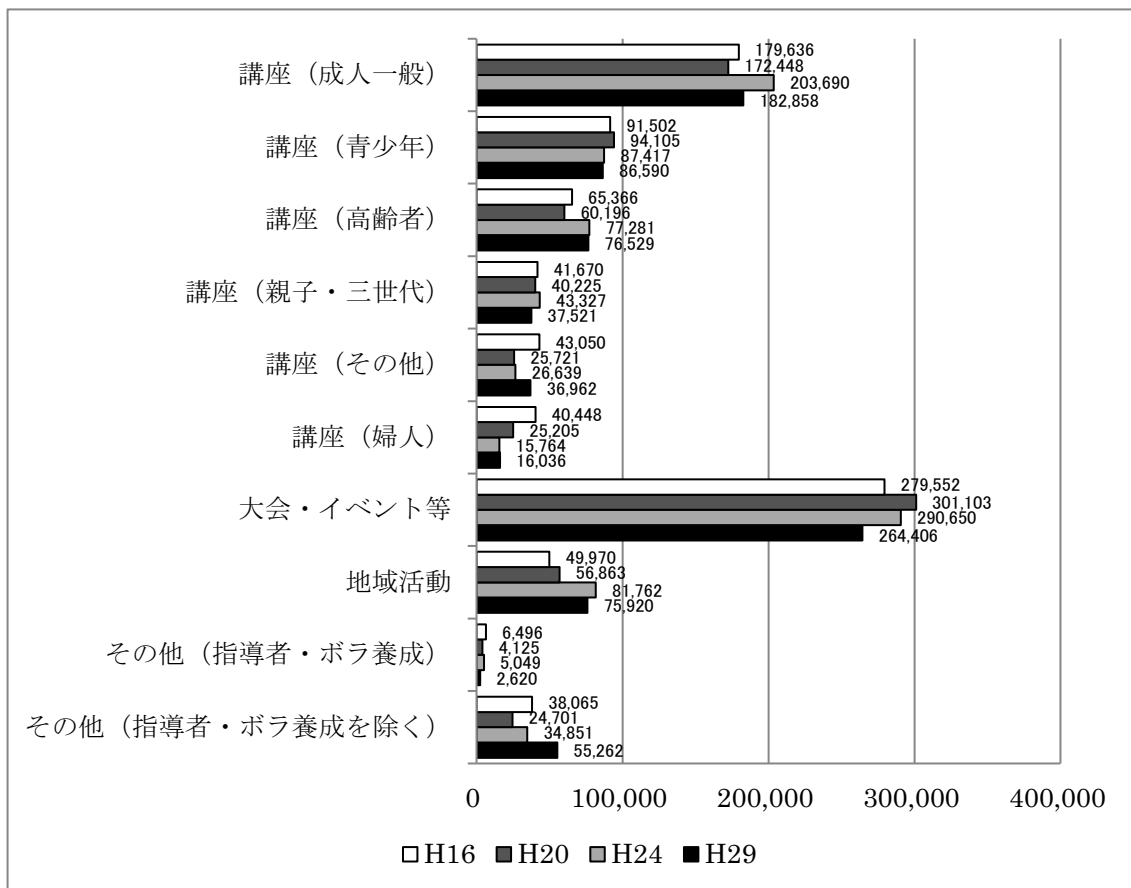
公民館事業の延べ参加者数の約5割が「講座」の受講者である。

図14 公民館事業の延べ参加者数の推移 (H16…n=428, H20…n=426, H24…n=436, H29…n=407)



◆「県教育庁生涯学習課資料」のデータを元に作成

図15 区分別公民館事業の延べ参加者数の推移 (H16…n=428, H20…n=426, H24…n=436, H29…n=407)

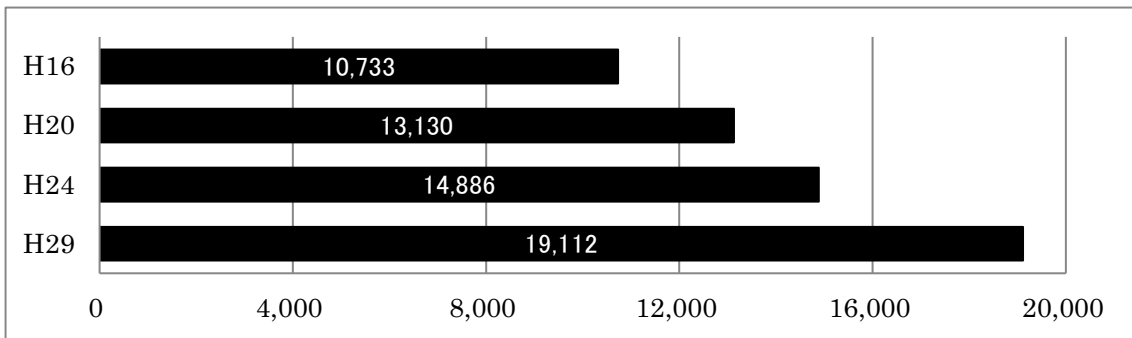


◆「県教育庁生涯学習課資料」のデータを元に作成



公民館を利用する団体数は、増加傾向にある。

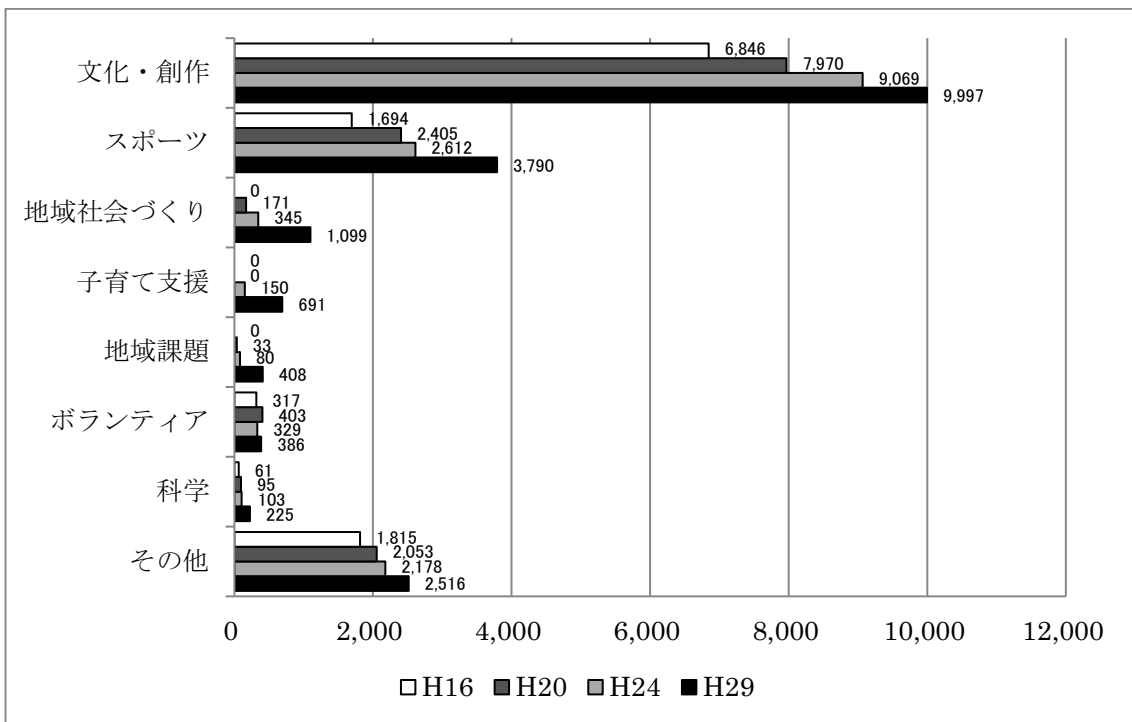
図 16 公民館利用団体（グループ）数の推移（H16…n=428, H20…n=426, H24…n=436, H29…n=407）



◆「県教育庁生涯学習課資料」のデータを元に作成

公民館利用団体区分はほとんどの項目で増加傾向にあるが、H24 と比べて特に「地域課題」「子育て支援」「地域社会づくり」に取り組む利用団体の増加率が高い。

図 17 公民館利用団体（グループ）区分の推移（H16…n=428, H20…n=426, H24…n=436, H29…n=407）



◆「県教育庁生涯学習課資料」のデータを元に作成

※「地域社会づくり」「子育て支援」「地域課題」の項目がH16で0となっているのは、選択肢がなかったため  
「子育て支援」の項目がH20で0となっているのは、選択肢がなかったため

#### 【4 公民館利用者・利用団体の現状についての自由記述】

##### 新規利用者への利用促進

- ・今まで公民館事業に参加したことがない人たちへのアプローチをどうするか考えなければならない。
- ・後継者問題解消、持続可能な地域づくりのために、既存の団体への新たなメンバー加入が必要になっている。
- ・公民館を利用していない層や、関係が希薄な団体等がフラットな関係でつながるとよい。
- ・働いている世代、学生、障害がある人、外国人、独居の高齢者、企業、NPO 等とは関係があまりとれていない。公民館が人と人、団体と団体をつなぐこともできるのではないか。出会いの場をつくり、情報発信の強化や出前講座等を積極的に行う。

- ・公民館に来る人は固定化してきている。今まで公民館に来たことのない人が「行ってみよう」と思えるような講座や事業を実施していきたいと思う。
- ・近年、利用者の高齢化が進み、活動に参加できなくなる方がいる一方で、新たな利用者は増えていない。団塊の世代といわれる方々も70歳前後で、なお仕事を持たれている方も多く、公民館活動に関心がない。参加する時間がない等の理由から、なかなか姿を見かけない。そのような方々も含め、まずは公民館を利用してもらうことから始めていきたい。
- ・公民館を利用していない年齢層（学生や働いている世代等）や、利用しづらい立場の人（外国人や障害者等）が、気軽に公民館で集えて、活動できるような状況がつけられる必要がある。
- ・公民館の利用者は中高年世代が中心となっているが、経年とともにさらに高齢化が進んでいる。大学生に尋ねてみると「そもそも公民館は自分たちが行く場所ではない」という認識さえ持っている。公民館に共通する課題ではないかと思うが、公民館の利用が少ない世代を呼び込むための施策の工夫が必要であり、そのための検討、努力を行っている。
- ・現在、岡山市内37の公民館のほとんどで、1日の利用者がその地域の人口の1%に至っていない状況である。わが公民館では0.5%ぐらいで、これは公民館のキャパシティからいうとおよそ半分である。キャパシティ以上は求められないかもしれないが、せめて現在の倍の利用者があるべきだと思う。利用者を増やすことを前提に公民館のあり方を変えていく必要がある。

#### **若い世代を含めた幅広い年齢層への利用促進**

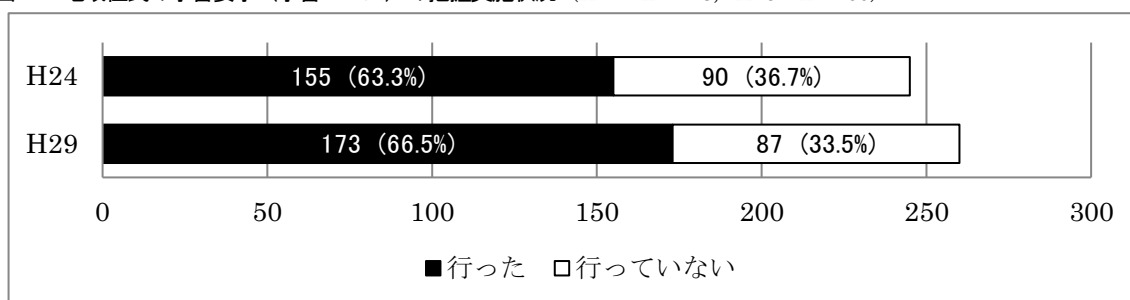
- ・高校生、大学生といった若い人材の積極的な活用が求められる。
- ・若い世代や子育て世代、社会人層等、より幅広い年代の方が活用できるような努力が必要である。
- ・持続可能なまちづくりに向けて、様々な活動や組織の次世代の担い手養成が必要である。
- ・中年層、子育て世代は公民館への参画が少なく、地域を支える重要な層になってくると思うので、その層を巻き込んでいきたい。
- ・小中高校の保護者や20～50代の世代の公民館活動への参加、または公民館利用の促進をすすめていくべきと思われる。
- ・公民館を日常的に利用している講座受講生やグループのメンバーが高齢化しており、人数も減少傾向にあるので、若い世代の利用をもっと活発にしていきたい。
- ・利用者の実態から高齢者利用施設になりがちだが、乳幼児を含む子ども、青年を含む若い人たちが大いに利用できる施設運営を真剣に考えていかなければならないと思う。
- ・少子高齢化で働き手不足のため、仕事につく年齢も上がり、公民館活動の担い手も高齢化の傾向にある。若者が活動しやすい公民館のあり方を考えていく必要がある。
- ・現状では、60～80代の高齢の方の参加が主となっている。三世交流や親の世代を代表する若い世代をどのようにして公民館活動に参加してもらうか、その手立てを考える必要がある。
- ・公民館利用者数を年齢別で見ると高齢者層が多いことがわかる。もっと幅広い年齢層に利用される公民館にするためにどうすればよいか、地域性、年齢別ニーズの把握が必要と考える。
- ・公民館は、乳幼児から高齢者まで幅広い年齢層の方々が学び、利用していく教育施設の場であると考えている。しかし現状は高齢者の利用が特に多く、乳幼児から子ども対象の講座や活動が少ないので、そのあたりを課題として取り組みたい。
- ・若者をいかにして巻き込んでいくか。若者の活躍の場をつくり、大人たちはいかに見守ることができるかが問われている。
- ・利用者については70歳以上の高齢者が大半を占めており、青少年の利用を推進しているが一向に改善の兆しがない。このままでは、年々利用者数の減少につながりかねない状況にある。
- ・利用者の固定化、若年層の公民館の利用がなかなか増えないのが現状である。中には、敷居が高いと感じている方もおられるので、行事など親子で参加体験できるものを増やし、日頃から公民館を身近に感じてもらえるように努めたい。

- ・若い世代の参加や育成が必要だが、共働き世代が増え、30～50代の働く世代の参加の確保が難しくなっている。
- ・地域における公民館の役割が大きいといわれる反面、地域住民の公民館への関心や意識が乏しい。利用者は限られており、若い世代の利用がほぼないのが現状である。いろいろな世代の利用の促進を図るも、そもそも協力者が少なく現状維持するのに精一杯である。現在の協力者も高齢化しており、次の担い手が見つからず、この先どのように運営していくべきか、模索中である。
- ・少子高齢化が進んできており、公民館利用者もその波を受けている。若い年齢層を呼び込むための方策も検討しているが、結果が出ていない現状なので、今後一層の検討をして、地域の人づくり、コミュニティの核となれるよう努めたいと思う。
- ・急速な少子高齢化の進展に伴い、子どもやお年寄りの生涯学習やスポーツの活動の場としての公民館の活用機会が少なくなっている。また、中学生は学校統合により公民館が時間的にも距離的にも遠くなり、自主的な公民館の利用は見られない。
- ・高齢者の集える場所としての提供や、男性の利用を増やすことが必要と思う。
- ・20年前に比べ、生涯学習に興味を持つ人は増えてきているように思うが、そこに関わっていく時間の余裕がない人が多いと思う。
- ・公民館活動に若者の参加がほとんどない状況の中で、当公民館では昨年度から、中高生に呼びかけをし、若者の考えを取り入れて活動ができており、とてもうれしく思っている。
- ・地域の高齢化が進み、グループ活動件数、活動者人数の急速な落ち込み現象が起こっている現在、素早い対応が可能な「主催講座」を活用し、地域の中高年に参加意欲を持ってもらえる企画を実施中で、今後も導入の予定である。
- ・高齢化と人口減少でもできることを少人数でコツコツとやっていき、高校やボランティア活動で島外からの若者を取り込んで活動していきたいと思う。

## 5 学習要求の把握状況

学習要求の把握を行った公民館の割合は、H24 と比べて増加している。

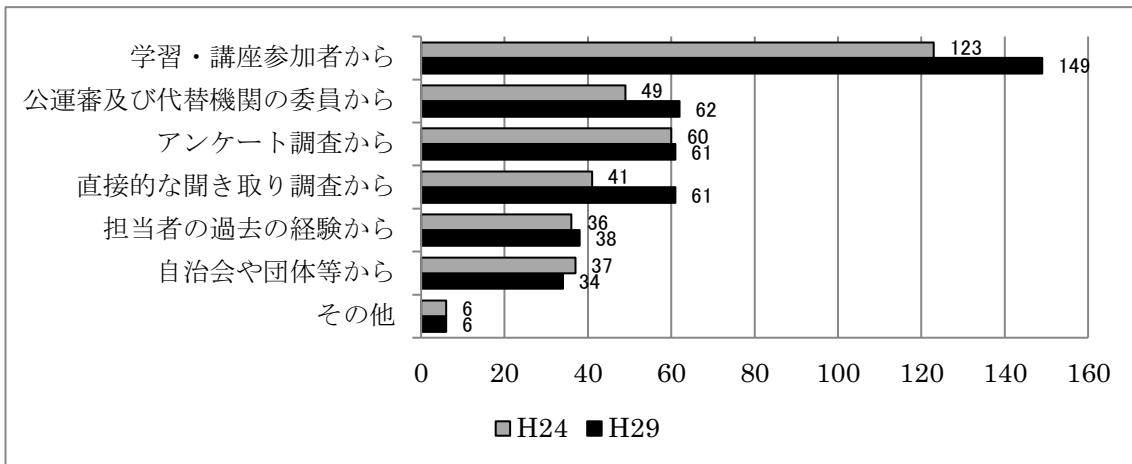
図18 地域住民の学習要求（学習ニーズ）の把握実施状況（H24・n=245, H29・n=260）



※過去5年間に学習要求の把握を行ったかどうか調査

学習要求の把握方法は、学習・講座の参加者によるものが最も多い。

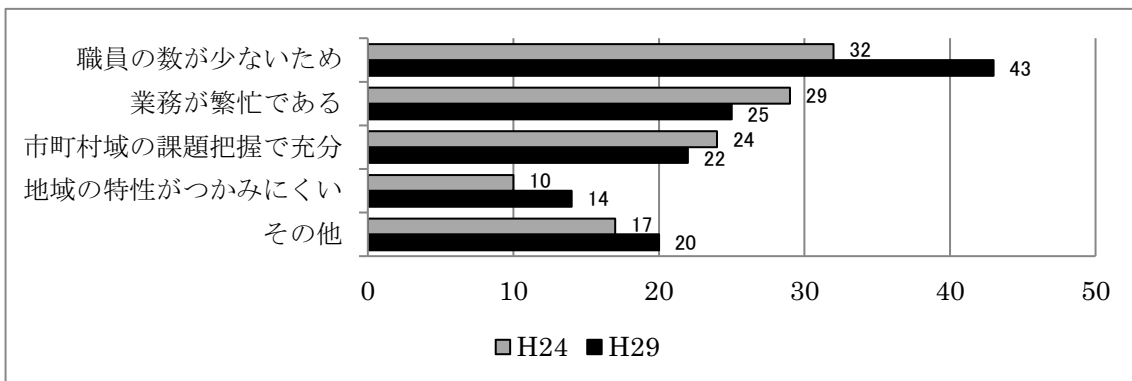
図 19 地域住民の学習要求（学習ニーズ）の把握方法（複数回答 H24・n=155, H29・n=173）



その他…○講座の企画会 ○公民館ワークショップ ○島内新聞への掲載調査 ○全世帯配布年5回発行の公民館だより 等  
 ※過去5年間にどんな方法で学習要求の把握を行ったかどうか調査

学習要求の把握を行わなかったのは、「職員の数が少ないため」と回答した公民館数が、H24と比べて増加している。

図 20 学習要求（学習ニーズ）の把握を行わなかった理由（複数回答 H24・n=90, H29・n=87）



その他…○必要性を認識していない。(他2件) ○他に優先される業務や課題がある。(他1件)  
 ○調査等はしていないが、要求があれば対応可能かどうか検討する。(他1件)  
 ○高齢化と人口減少で難しい。(他1件) ○これまで学習要求の把握を行っていない。  
 ○公民館関係地区が広い。 等

### 【5 学習要求の把握状況についての自由記述】

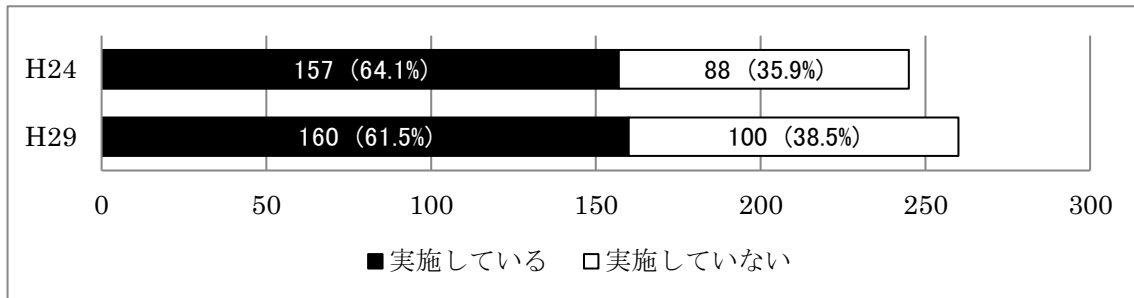
- ・子育て世代や50代、60代の人々の公民館への思いや願いを掘り起こすことが大切である。
- ・日々変わっていく市民のニーズをアンケートや聞き取りを通して把握し、公民館運営や講座開催を行う必要があると考える。
- ・少子高齢化が急速に進む中、地域の生涯学習の拠点施設としての役割を果たすためには、地域住民のニーズを十分に把握した上で、地域の実態にあった事業の企画、運営がますます重要になってくると思われる。
- ・これまでいくつかの研修会等で学んできた内容を踏まえ、これからの公民館は、「地域の拠点」「地域の核となる」公民館であるべきだと考えている。地域ごとの課題は、地域によって様々であり、その時々々の「地域住民のニーズ」を把握するプロセスを大切にすることが必要である。本館としても、そこから公民館が取り組む方向性を見定めて企画に反映していきたいと思う。

- ・「地域住民の学習要求(学習ニーズ)の把握」については、当館のような地区館でも管内住民の学習ニーズに沿った講座を開催できればよいが、中央公民館において定期、特別講座、地域人づくり大学で各種講座を実施しているので、市全域を対象とした形でもよいのではないかと思います。

## 6 事業の自己点検及び評価の実施状況

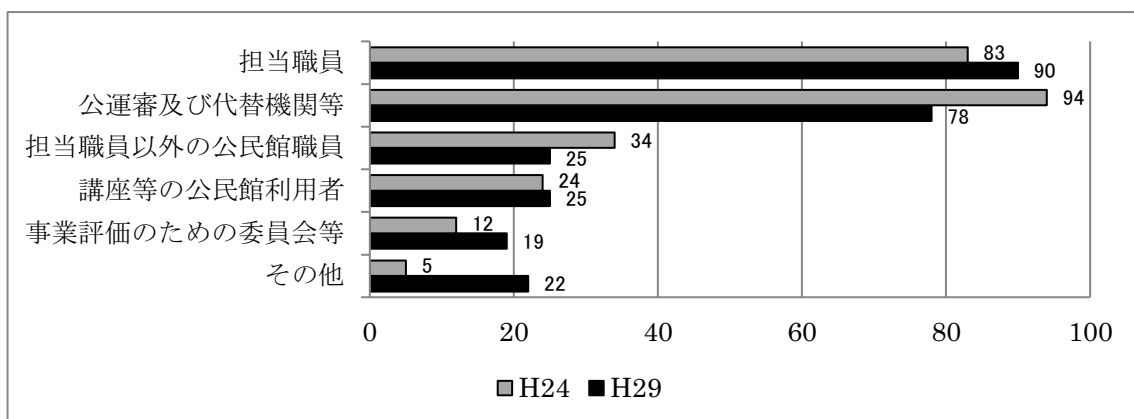
事業の自己点検及び評価を実施している公民館の割合は、H24 と比べて減少している。

図21 事業の自己点検及び評価の実施状況 (H24・n=245, H29・n=260)



事業の自己点検及び評価者として、「担当職員」が最も多い。

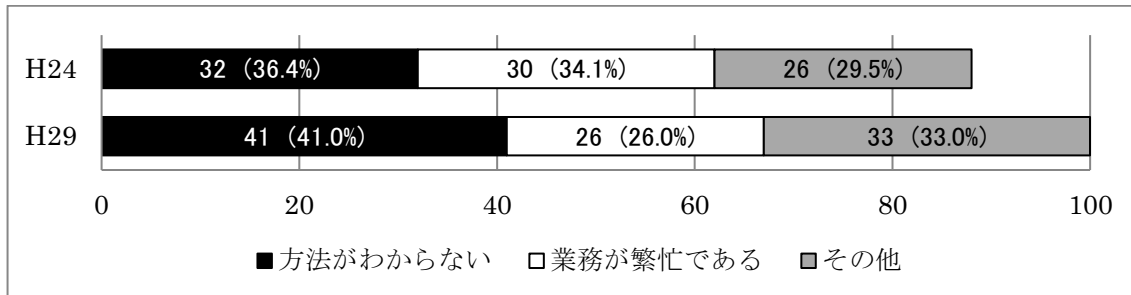
図22 事業の自己点検及び評価者 (複数回答 H24・n=157, H29・n=160)



その他…○事業実績報告書をもとに中央公民館で実施 (他 10 件) ○事業の参加団体代表者会議 (他 2 件)  
○地域の文化団体 ○大学教授 ○住民 等

自己点検及び評価を行わなかった理由として、「方法がわからない」と回答した公民館の割合が、H24と比べて増加している。

図23 事業の自己点検及び評価を行わなかった理由 (H24・n=88, H29・n=100)



その他…○臨時館長のみの体制である。(他4件) ○必要性を認識していない。(他2件)

○点検・評価を行う体制ができていない。(他2件) ○代わりにアンケートを実施した。(他1件)

○統一した方法や取り決めがない。(他1件) ○日々の反省を話し合っている。(他1件)

○点検・評価への十分な認識がない。(他1件) ○公民館事業を共催で実施している。(他1件)

○新規事業の取組ができず、昨年度の事業を継続している。○事業が点検・評価できるレベルに達していない。

○点検・評価できる職員がいない。○特に理由はない。等

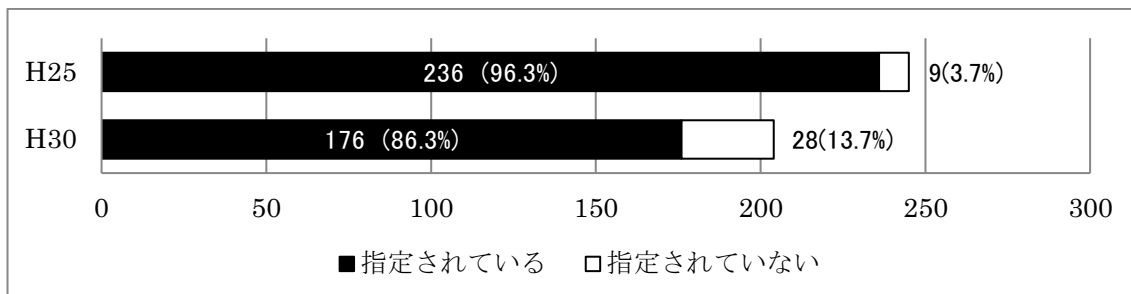
## 【6 事業の自己点検及び評価の実施状況についての自由記述】

- ・直面する地域課題や社会的な課題に目が行き過ぎていて、目の前の課題を解決するための教育活動や学習活動が評価される傾向にある。教育、学習活動が、課題解決の直接的な手段になり下がっているのではないかと感じる。文化的な活動等、人間性を豊かにしたり、地域や社会に対して愛着をもったりするような活動がおろそかにされていると感じる。様々な素地や考え方を身につけた人を育てていくことが、自ら責任を持って考え、行動する人を育てることだと思うが、そういう学習はとても気長なものである。行政の各部局から公民館へ政策がおりてきており、実行部隊としての期待がある。しかし、受ける公民館は4人しかいない。費用対効果、目に見える成果ではないものを大切にしたい。
- ・公民館経営の目標を掲げ、評価の視点を取り入れた公民館づくりが大切である。

## 7 防災・減災への対策

災害時に避難所として指定されている公民館数は、減少している。

図24 災害時の避難所指定 (H25・n=245, H30・n=204)

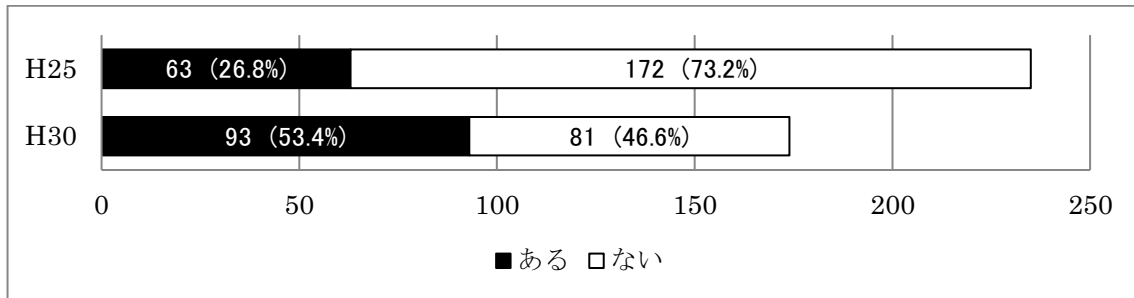


◆H25は、平成25年度「全国公民館実態調査」(平成26年1月1日現在)のデータを元に作成(以下、「H25全公連調査」と表記する)

◆H30は、平成30年度「全国公民館実態調査」(平成31年1月1日現在)のデータを元に作成(以下、「H30全公連調査」と表記する)

避難所に指定されている公民館で、避難所運営マニュアルを策定している館は、H25に比べて約1.5倍に増加している。

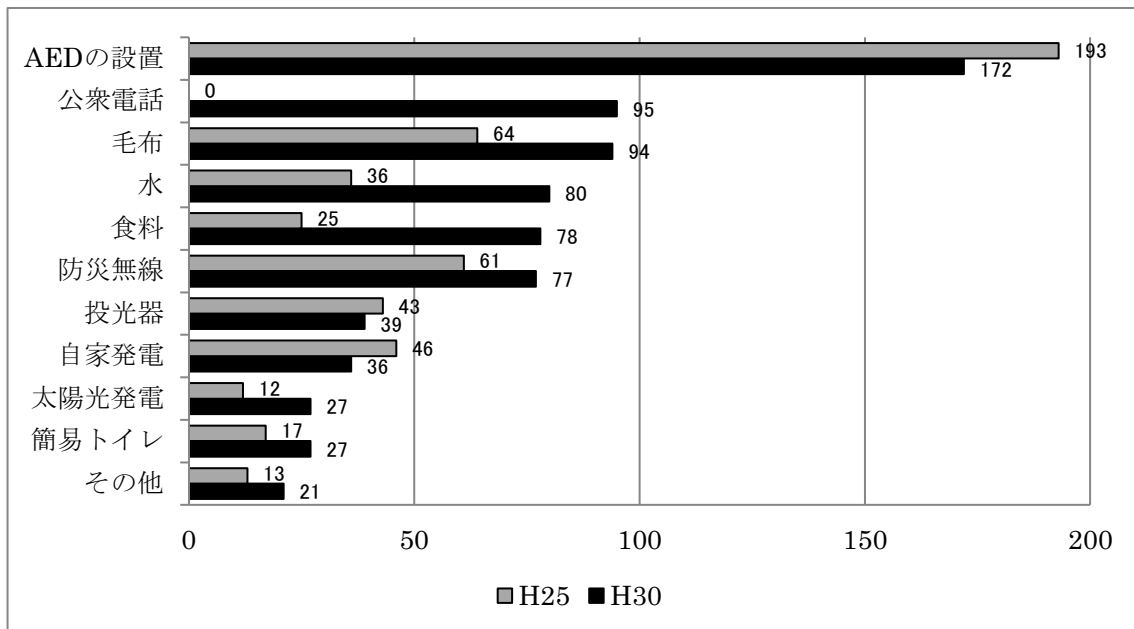
図25 避難所運営マニュアルの有無 (H25…n=235, H30…n=174)



◆「H25 全公連調査」「H30 全公連調査」のデータを元に作成

公民館が避難所となった場合に備えているものとして、「毛布」「水」「食料」等が増加している。

図26 避難所となった場合に備えているもの (複数回答 H25…n=245, H30…n=206)



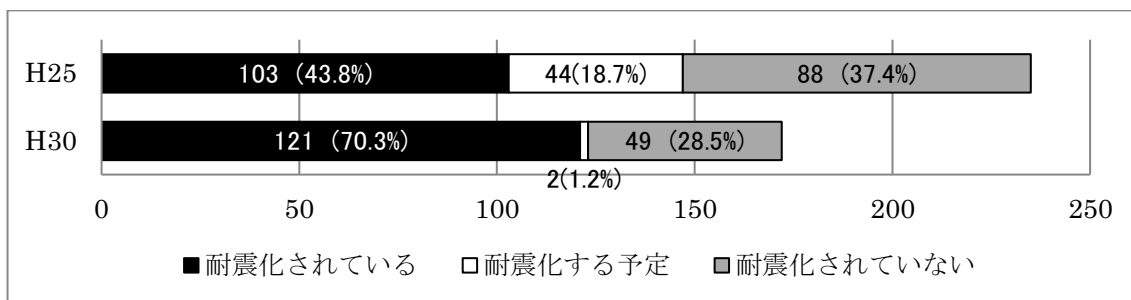
◆「H25 全公連調査」「H30 全公連調査」のデータを元に作成

その他…○懐中電灯付きラジオ (他1件) ○非常食 (他1件) ○トランシーバー ○救急箱 ○バスタオル  
○ヘルメット ○大人用おんぶひも ○役員ベスト ○テント ○車いす ○担架 ○ゴムボート ○リヤカー  
○避難所看板 等

※「公衆電話」の項目がH25で0となっているのは、選択肢がなかったため

避難所に指定されている公民館は耐震化が進んでいるが、約3割が耐震化されていない。

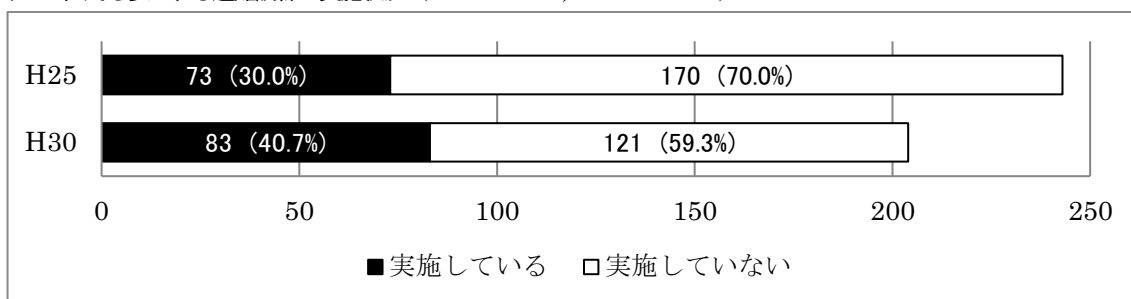
図27 公民館の耐震化 (H25・n=235, H30・n=172)



◆「H25 全公連調査」「H30 全公連調査」のデータを元に作成

住民参加の避難訓練を行う公民館数は増加しているが、半数以上の公民館が行っていない。

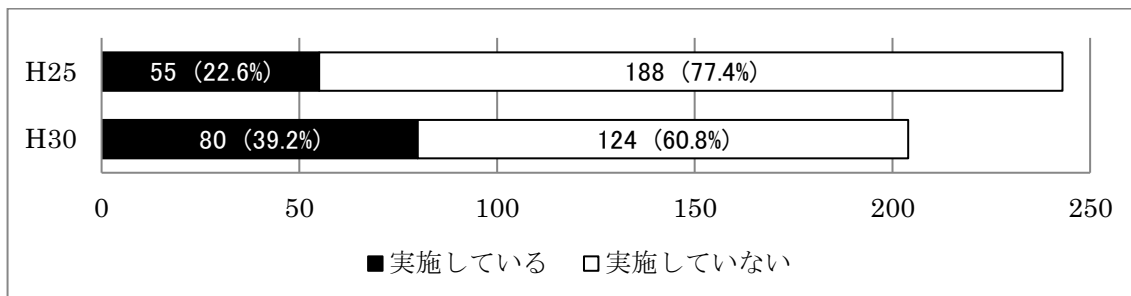
図28 住民も参加する避難訓練の実施状況 (H25・n=243, H30・n=204)



◆「H25 全公連調査」「H30 全公連調査」のデータを元に作成

防災・減災講座を毎年実施していない公民館数は減少しており、約6割である。

図29 防災・減災にかかわる講座を毎年実施しているかどうか (H25・n=243, H30・n=204)

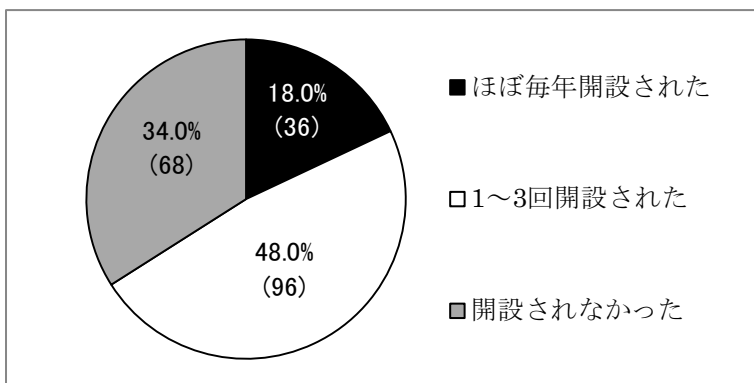


◆「H25 全公連調査」「H30 全公連調査」のデータを元に作成



過去5年間で、約3分の2の公民館が実際に避難所として開設された。

図30 過去5年間（H26～30年度）の避難所開設状況（n=200）

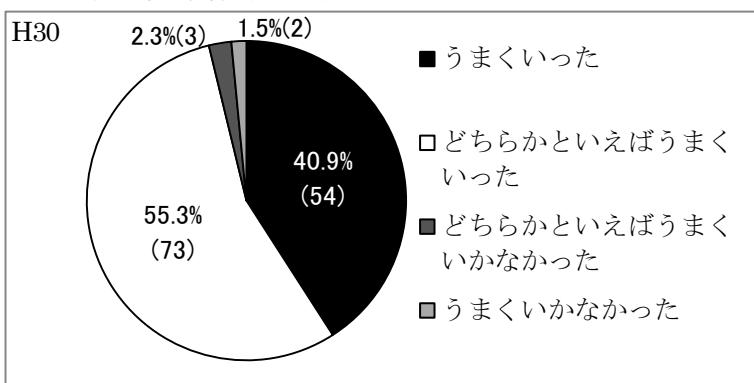


※開設された132館は、ほとんどが公民館職員や行政職員によって主に開設された。（ボランティアによる開設が1名、その他による開設が2名）

◆「H30全公連調査」のデータを元に作成

避難所運営が「うまくいった」と回答した公民館は約4割で、「どちらかといえばうまくいった」と回答した公民館は5割を超えている。

図31 避難所運営の実際（n=132）



◆「H30全公連調査」のデータを元に作成

### 【7 防災・減災への対策についての自由記述】

- ・地域の防災としての拠点でもあるので、より一層の施設、設備の充実が望まれる。（他1件）
- ・災害の多い中、防災に向けて取り組んでいかなければと思う。
- ・地域の防災力の向上が求められている。
- ・公民館主催事業として、防災教育を行う。
- ・防災施設、避難所としての公民館のあり方について考えなければならない。
- ・今後は災害時の避難所としての役割を、今まで以上に考えておく必要があると考えている。
- ・市内公民館の自主防災施設としての役割と防災マニュアルづくりが求められる。
- ・生涯学習以前に最近の大災害発生を見るまでもなく、防災面での避難場所としての充実が必要である。実際に災害が発生した場合、行政からの支援は期待できないと思われる。
- ・災害避難所に指定されていることもあり、地域の防災拠点として、災害時の避難場所だけでなく、緊急資機材の備蓄も必要と考える。
- ・地域における防災意識は高く、自主防災会を中心に常に危機感を持った取組が行われている。さらに市民の防災意識を高めるため、関係機関とつながりを持ち、想定外の災害時においても速やかに対応できる力を身につけるため、学びの場を提供することが大切である。
- ・自然災害に備え、地域防災を担う人づくりや活動を通じ、地域の防災ネットワークの拠点となっていくべきである。

- ・地球規模で災害が続発している現在、未来を見据えて、防災拠点でもあるべき公民館を安全で安心して避難ができ、避難生活ができる場所にするには早急に必要である。
- ・どこの公民館も避難所としての役割を担っていると思う。その中で災害が起きた時に避難者を受け入れるだけでなく、地域住民との関わりの中で減災をテーマに学習の場を提供していきたいと思う。
- ・地方自治体向けに南海トラフ巨大地震に備えた防災計画の策定が必要である。
- ・公民館職員に防災士の資格を持たせることが必要である。
- ・次から次へと発生している自然災害。避難場所としての公民館の使命は非常に大きく、地域住民からの期待もある。有事発生時における行動は？対応は？備蓄品は？等々、課題は山積みされている。防災に対する一歩掘り下げた取組が必要である。
- ・昨今はある日突然の災害に、いつ、どこで、どのように遭遇するかわからない時代になっている。テレビ等の報道で感じるのは、地域住民の結びつきの重要性である。日頃からの情報交換もさることながら、いざという時の助け合いも普段の交流があつてこそスムーズにいくのではないかと思う。過去当地区でも台風や集中豪雨等で多くの世帯が床上、床下浸水の被害を経験しており、地域で交流を深めることの大切さを皆が認識していると思う。公民館は地域の情報発信地であり、ことあるごとに地域住民が集い、ふれあい、学ぶ場所であると同時に、自然災害が起きた時の避難場所でもある。子どもから高齢者までをコンセプトに、公民館と連合町内会、地区関係団体が協働して子育て支援や健康づくり、自主防訓練を通して高齢者や子どもなど災害弱者の安全・安心の確保等、公民館を拠点とした様々な活動を起こすことで、地区住民のつながりがより一層深まる可能性を秘めていると感じている。